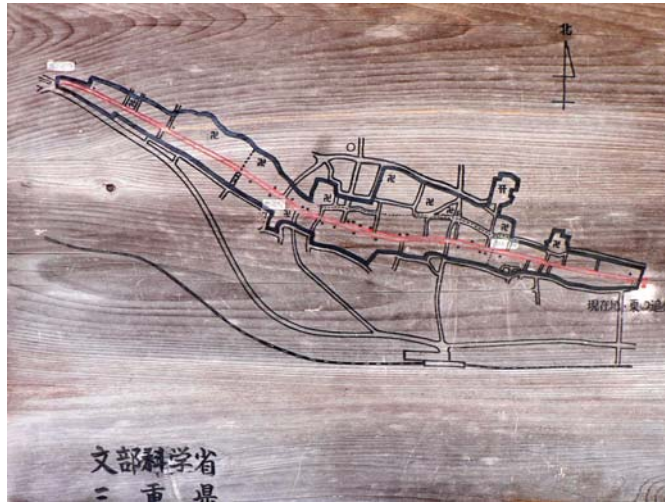
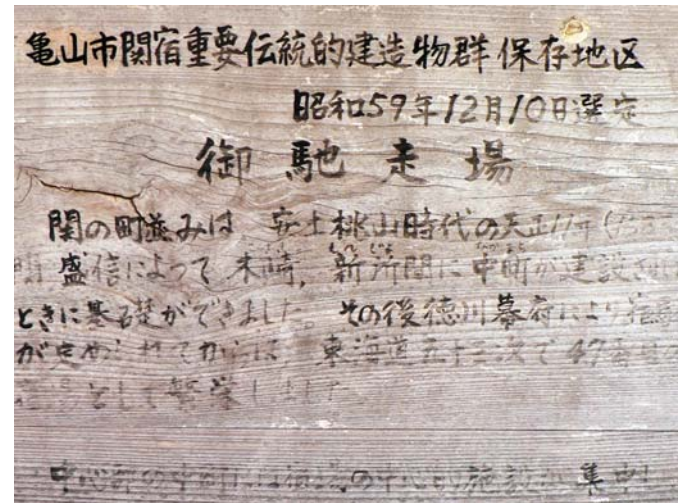
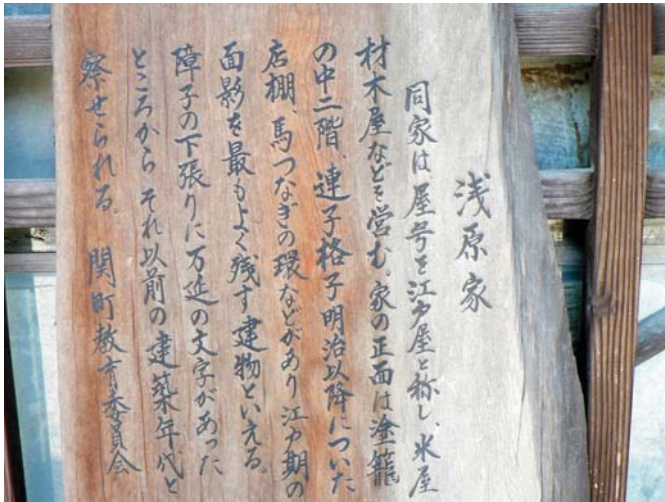
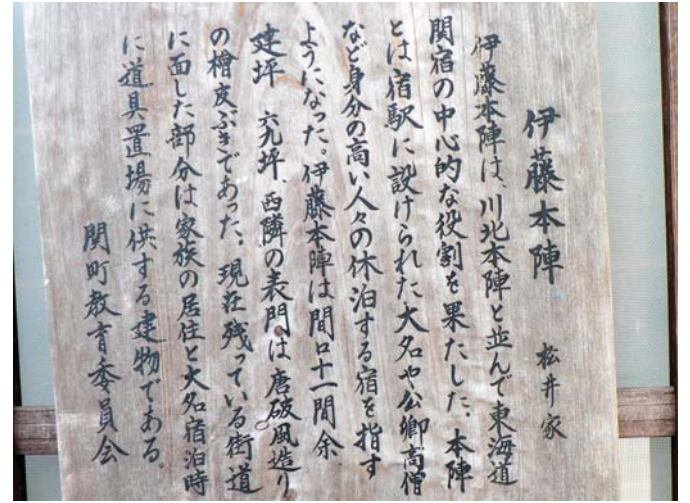










◆本陣・脇本陣



大名・公家・幕府の役人などが宿泊したり、休憩する格式のある宿屋で、東海道では各宿に平均2軒が置かれました。

脇本陣は、大名などの宿泊が重なる場合に本陣を補佐した宿屋で、本陣に次ぐ格式をもっていました。

現存する東海道の本陣遺構としては、二川宿本陣（愛知県豊橋市）と草津宿本陣（滋賀県草津市・国史跡）がある。

◆旅籠



武士や一般庶民を宿泊させた食事付きの宿屋で、宿場で多数を占めていました。旅籠を描いた浮世絵には、店先で客を呼び込む客引き、桶で客の足を洗ったりお膳を運ぶ女中、化粧をする飯盛女、ご用を聞くあんま、風呂に入り座敷でくつろぐ客など、旅籠での人々の姿が描かれています。

「閑て泊まるなら鶴屋か玉屋、まだも泊まるなら合津屋か」

これは、伊勢参りの人々が閑の旅籠を語ったものです。鶴屋は西尾脇本陣、合津屋は地蔵院前の旅籠で、それぞれ今でも建物が残っています。こうした大旅籠では多いときで200名近い宿泊客があったと思われ、玉屋の棟に残っていた宿帳には100名近い団体の記録があります。これほどの人数を収容するため、当時の旅籠では一室に数組を詰め込む相宿が普通でした。『旅行用心集』にも、旅籠屋における注意の一つとして相宿時の心得が記されています。

天保14年（1843）の『東海道宿村大概帳』には、東海道各宿の旅籠の数が、その規模ごとに数えられています。閑宿と周辺の宿場の数を示すと次の通りです。

	戸数	人口	本陣	脇本陣	旅籠屋			
					大	中	小	合計
龜山	567	1,549	1	1	0	9	12	21
閑	632	1,942	2	2	10	18	14	42
坂下	153	564	3	1	2	9	37	48
土山	351	1,505	2	0	5	18	21	44



